

芳沢左俣 1994年6月27日
L系

天気曇時々晴。稜線から下降して芳沢左俣の源頭に降り立つ。沢の中はすごい湿気で、ガスが漂う。小沢を合わせながら下降してゆくと、小さいが滝がいくつか出てくる。12時を過ぎたあたりで昼食にしてしばらく休憩。

滝が途切れると、長い河原歩きが続く。途中で少しだが残雪がみられた。さして変化もないままに砂防ダムに到着。左岸に山菜採りの踏跡があり、簡単に降りることができた。踏跡をたどってゆくと西吾妻スカイバレーに出て、下降に終わりを告げる。滝がかかる右俣とは違って、何の変化もない。弁当のおかずにはフキを少々いただいたのが収穫であった。

[タイム] 稜線(11:50)→沢(12:10)→砂防ダム(13:30)→西吾妻スカイバレー(13:35)

駒止高原山地の沢

岩重沢左俣右沢(カツラ沢) 1994年7月9日
L系

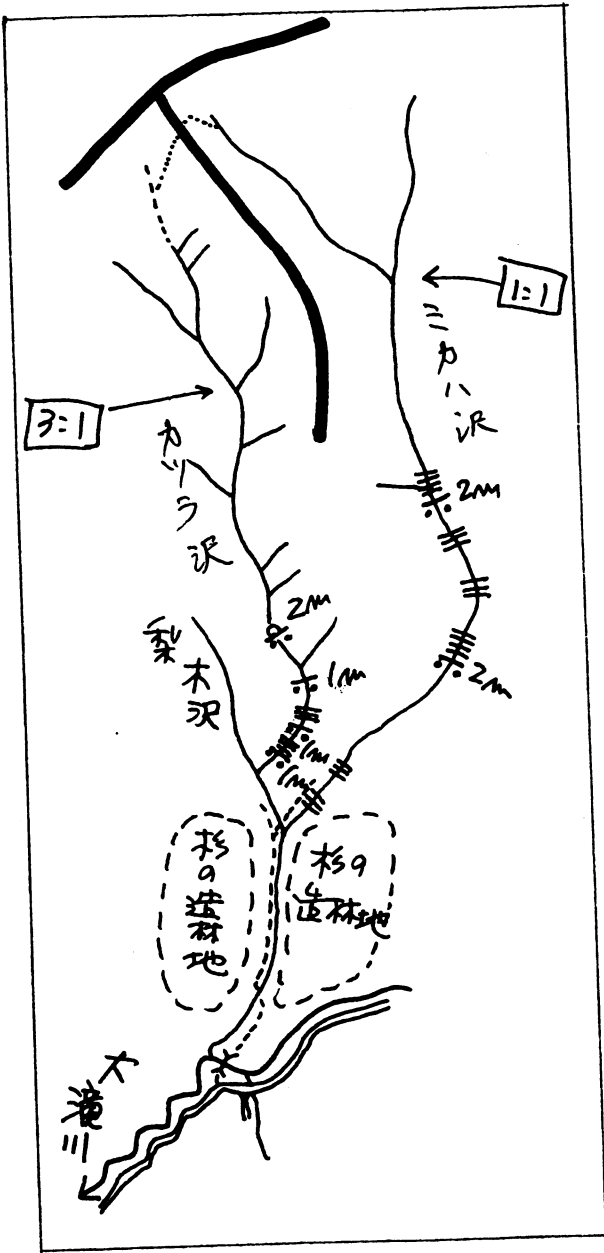
宮川支流大滝川流域の遡行調査をしようと、前日に福島を発つ。会津若松から国道401号線に入り、会津高田町を過ぎてだいぶ進むと、林道大滝線を左に分ける。冬期間閉鎖のゲートが目印となる。新宮川ダムの付替道路をしばらく進むと、林道は砂利道に変わり、大滝川にそって登ってゆく。大滝の手前にあるゲートの所に車を止めて、テントを張った。この先林道は工事中で、車の乗り入れはできない。

うどんとおにぎりで腹ごしらえをして出発する。まず大滝川にそって、林道を岩重沢の出合まで歩く。岩重沢には作業道がついているが、今は使われていないのだろう、大滝川にかかる橋は落ち、踏跡もだいぶ古いようだ。

出合から沢に入り忠実に遡行してゆくが、平坦で変化もない。しばらく沢を歩いていたら、とうとう左岸の踏跡に上がってしまった。右俣（ミカハ沢）分岐で沢に戻り、左俣（カツラ沢）の遡行を開始する。すぐに左沢（梨木沢）が分岐する。等高線もまのびしているが、実際に歩いてみてもずっと河原が続く。1~2mの小滝がいくつか出てきた後は、何の変化もないままに水が涸れてしまった。

上部のヤブこぎは、背の高いササが行く手をさえぎり、思うように進めない。ある程度奥まで突っ込まないとミカハ沢に降りられないので、地図を確かめながら悪戦苦闘して右の尾根をめざす。ブナの原生林を期待して入った沢だったが、ブナの木は2~3本みかけただけで、ササの密生した源頭であった。 (記)

【タイム】 ゲート(7:15)→岩重沢出合(7:45)→ミカハ沢出合(8:10)→梨木沢出合(8:20)→沢終了(10:10)→尾根(10:55)



岩重沢右俣(ミカハ沢)

1994年7月9日
Lj

カツラ沢の遡行を終えて、ミカハ沢の下降に移る。傾斜がゆるやかで、水が出